第６７次千葉県教育研究集会
第９分科会　第１分散会　保健・体育（保健）

7

連携して動ける校内救急体制にするために
～シミュレーション演習を取り入れた定期的な職員研修を通して～

１．主題設定の理由

学校事故発生時は、適切な救急処置に加え救急車要請、保護者連絡、経過の記録など、いくつもの役割を複数の教職員が連携しながら、対応する必要があるが、現状では養護教諭が救急処置をしながら医療機関への連絡、保健調査票の準備、保護者連絡に追われていることが多いのではないかと思われる。

本研究に先立ち、佐倉市・酒々井町の養護教諭対象に校内救急体制に関する実態調査をしたところ、緊急時に連携して動ける校内救急体制とはいえないと考えている養護教諭が多かった。また、現在行われている職員研修は、心肺蘇生法などの技術習得が中心で救急体制に関する研修はほとんど行われておらず、更に研修時間の確保も難しいという実態も浮き彫りとなった。そこで、校内救急体制に関する職員研修を、養護教諭が講師となり、短時間の研修を定期的に行うこと、そのための手立てとしてシミュレーション演習を取り入れることで、 連携して動ける校内救急体制につながるのではないかと思い、本主題を設定した。

２．研究仮説

シミュレーション演習を取り入れた短時間の職員研修プログラムを作成し、 定期的に行えば、教職員の救急対応に対する知識や意識が高まり、連携して動ける校内救急体制につながるだろう。

３．研究内容

（１）ショート・シミュレーション研修プログラムの作成と実施
（２）ショート・シミュレーション研修プログラムの成果を確認するための調査

４．結論

・シミュレーション演習を取り入れた短時間の職員研修プログラムを作成し、定期的に実施したことで、 緊急時の個々の役割が明確になり、教職員の救急対応に関する知識や意識が高まった。実施後のアンケートからは「校内救急体制づくり」に役立ったという評価が得られた。
・学校現場では、予想外の事故が起こり、今回の研修プログラムだけでは十分とは言えない。今後もシミュレーション演習を工夫しながら校内研修を充実させ、連携して動ける校内救急体制づくりに努めていきたい。

9－1

印旛支部
佐倉市立小竹小学校　野﨑　純子
佐倉市立千代田小学校　岩﨑　楓

連携して動ける校内救急体制にするために
～シミュレーション演習を取り入れた定期的な職員研修を通して～

1　はじめに

「ＡＳＵＫＡモデル」となったさいたま市の小６女児死亡事故や調布市の食物アレルギー事故が相次いで起こり、子どもたちの生命を守るための「校内救急体制」の整備がより強く求められている。

本来、学校事故発生時は、適切な救急処置に加え、救急車要請、保護者連絡、経過の記録など、いくつもの役割を複数の教職員が連携しながら、対応する必要がある。

しかし、多くの養護教諭は、救急処置をしながら医療機関への連絡、保健調査票の準備、保護者連絡に追われるという経験を、少なからずしているのではないだろうか。

そこで、本研究に先立ち、一部会養護教諭対象に「校内救急体制に関する実態調査」を実施したところ、養護教諭は「校内救急体制が教職員に周知できていない」、「緊急時に連携して動ける校内救急体制とはいえない」と考えていることがわかった。

また、救急処置に関する職員研修についても調査したところ、「消防署による心肺蘇生法」と「学校薬剤師による食物アレルギー対応」が中心で、校内救急体制に関する研修の機会はなかった。中学校では「消防署による心肺蘇生法」も、半数の学校では実施されておらず、「救急処置に関する研修時間確保」という課題も浮かび上がった。

以上のことから、養護教諭が講師となり「校内救急体制」に関する職員研修を、短時間で定期的に行うことにより、連携して動ける校内救急体制を目指したいと考え本主題を設定した。

なお、救急対応に必要な役割を分担できるようにする手立てとして、「シミュレーション演習」を取り入れた職員研修を選んだ。

2　研究仮説

シミュレーション演習を取り入れた短時間の職員研修プログラムを作成し、定期的に行えば、教職員の救急対応に対する知識や意識が高まり、連携して動ける校内救急体制につながるだろう。（以下は「ショート・シミュレーション研修」）

3　言葉の定義

シミュレーション演習：　実際の場面を想定し役割を決め、その場の状況に応じた判断を行い、適切に行動する力を育成するための研修方法。

救急処置　：　突然発生する疾病や傷病に対して、医師による本格的な医療が行われるまでの間に傷病者の状態の悪化を回避するための処置。一次救命処置（心肺蘇生、AED を用いた除細動、気道異物除去）と応急手当（圧迫止血、固定、回復体位など）を含んだ行為。

校内救急体制　：　学校事故発生時に的確かつ迅速な対応を可能にするための連絡・連携体制。

救急対応　：　学校事故発生時に必要となる救急処置、救急車要請、医療機関への移送、事故に関する情報収集、保護者への連絡、記録、他の児童生徒への指導など。

4　研究経過

2015年度	1月　養護教諭への実態調査　（一部会養護教諭　1園・37校） 3月～　ショート・シミュレーション研修プログラム（年間計画・展開案・資料）の作成 ※年度末職員会議でショート・シミュレーション研修の提案(各学校)
2016年度	※年度始め職員会議でショート・シミュレーション研修の提案(各学校) 4月　教職員へのアンケート調査の実施（救急処置班　1園・8校） 4月～　ショート・シミュレーション研修の実践 7月～　ショート・シミュレーション研修プログラム（年間計画・展開案・資料）の見直し 2月　教職員へのアンケート調査の実施（救急処置班　1園・8校）
2017年度	4月～　教職員へのアンケート調査の集計と考察

5　研究内容

（1）　ショート・シミュレーション研修プログラムの作成と実施

養護教諭が講師となり、シミュレーション演習の手法を取り入れた15分程度の「ショート・シミュレーション研修」のプログラムを作成し、各学校で実施した。

①　ショート・シミュレーション研修年間計画の作成

学校事故発生時に必要となる救急処置や連絡体制に関する12の役割を、研修テーマとして、毎月1テーマ、年間12回のショート・シミュレーション研修を企画し、開始したが、毎月実施することが難しいという実態から、12テーマを9テーマに精選した。

学期末の8、12、3月は「調整月」とし、学期中に実施出来なかったテーマや十分に説明できなかったテーマについて実施できるようにした。

＜ショート・シミュレーション研修年間計画＞　　＊シミュレーション演習

月	テーマ	研修内容	資料
4	校内救急体制①	・校内救急体制の目的や現状について説明をする。 ・自校の校内救急体制の確認をする。 ・教職員アンケート（事前）を実施する。	
5	救急車要請	＊通報役の職員が、携帯電話で、消防署役の養護教諭（固定電話）に電話し、救急車要請を行う。	携帯電話と固定電話の違い
6	保護者連絡	＊保護者への連絡役の職員が、携帯電話で、保護者役の養護教諭（学校の固定電話）に電話し、事故の連絡をする。	NGワード他 資料1～4
7	AED	・AEDの設置場所、使い方の確認をする。 ・実物のAEDの蓋を開け、実際に流れる音声を聞かせる。	AEDの実際の音声
8	（調整月）		
9	胸骨圧迫	・胸骨圧迫の位置、早さ、回数を確認・体感するために100回/分のリズムに合わせてテニスボールを圧迫する。	救急体制マーチ資料6

月	テーマ	研修内容	資料
10	記　録	＊記録役として、食物アレルギーのミニドラマを見ながら、経過を記録する。	文科省ＤＶＤ
11	現場 リーダー①	・現場リーダー役として、他の職員に分担させる役割を具体的に答えてもらう。	
12	（調整月）		
1	現場 リーダー②	＊現場リーダー役として救急体制アクションカードを使い、数人の職員に役割分担し、傷病児童を救急隊員に引き継ぐまでの動きを実施する。	アクション カード 資料５
2	校内救急 体制②	・研修のまとめをする。 ・教職員アンケート（事後）を実施する。	パワーポイント 資料６
3	（調整月）		

② 展開案と資料の作成

学習指導案の様式を参考に、導入、展開、まとめの流れで、研修の進行表となる「展開案」を、テーマ毎に作成した。研修時間内に、研修内容を漏れ落ちなく説明できるようにするため、箇条書きではなくより具体的なシナリオ形式とした。

また、展開案の作成に合わせて資料の作成も行った。

〈基本の流れ〉

導　入 （テーマの説明）	２分	テーマの目的、研修の必要性を知らせるため、現状と問題点を説明したり、予備知識を確認する質問を投げかける。
展　開 （シミュレーション演習）	10分	校種や学校の実態に合わせた臨場感のある場面を設定し緊急時に適切に行動するための演習を行う。 また、シミュレーション演習の効果を高め、意欲的に研修に参加してもらうための資料を取り入れる。
まとめ （まとめ資料による説明）	３分	口頭による説明を補い、ポイントを明確にするため、毎回、研修の最後にまとめ資料を配布する。それを専用のファイルに保存してもらい、「校内救急体制マニュアル」になるようにする。

③ ショート・シミュレーション研修の実施

作成した展開案を基本に、各学校ごとに実態に合わせて必要な修正を加え、年間９回職員会議終了後または終礼後に実施した。

研修終了ごとに、所要時間や教職員の反応、学校独自の工夫点や反省点について養護教諭が「実施記録」としてまとめた。各学校の「実施記録」は、定期的に持ちよって、工夫点や反省点を共有し、展開案の見直しを行った。

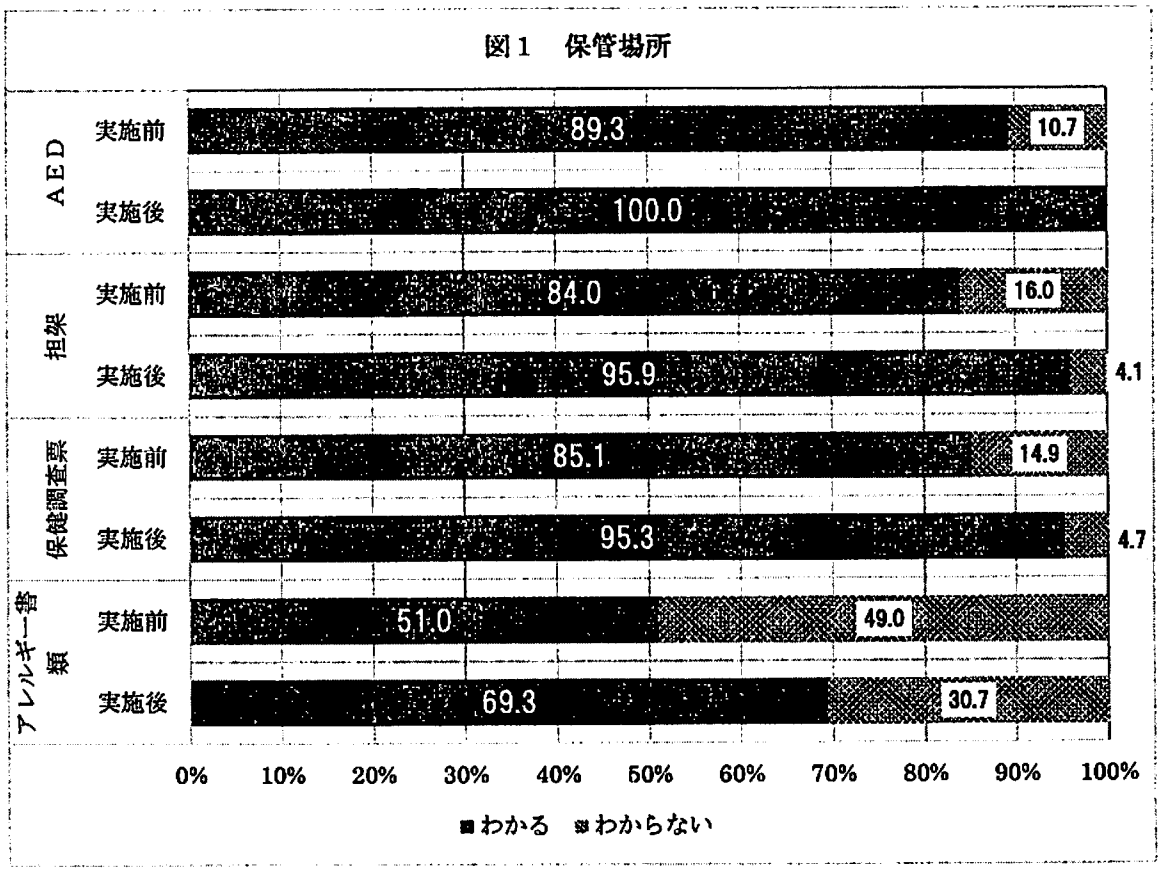
（2）ショート・シミュレーション研修プログラムの成果を確認するための調査

ショート・シミュレーション研修による、教職員の救急対応に対する知識と意識の変化を確認するため、研修実施前後に無記名によるアンケート調査を実施した。

	研修実施前　（２０１６．４）	研修実施後（２０１７．２）
対象	救急処置班９校の教職員　　１６９人	
校種	幼稚園 11 人（5.8%）　小学校 109 人（58.0%）　中学校 68 人(36.2%)	
内容	①救急対応に必要な物品の保管場所 ②救急対応に必要な知識と意識 ③校内救急体制に関わる行動	①救急対応に必要な物品の保管場所 ②救急対応に必要な知識と意識 ③校内救急体制に関わる行動 ④研修への教職員の評価 研修への要望、意見、感想（自由記述）

① 救急対応に必要な物品の保管場所

救急対応に必要となる AED、担架、保健調査票、アレルギー管理指導表の保管場所を把握している教職員の割合を研修実施前後で比較した。



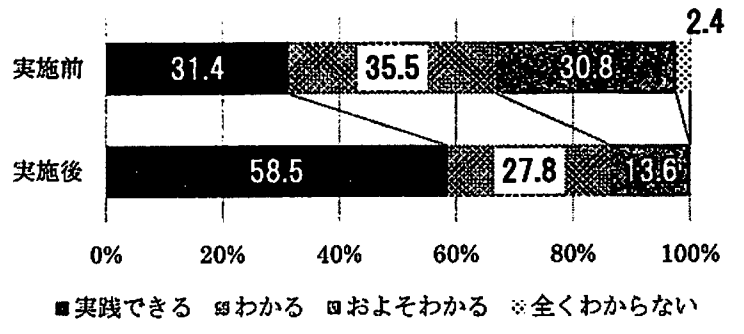
AED、担架、保健調査票、アレルギー管理指導表の全項目で、保管場所が「わかる」と回答した教職員が、研修実施後に増加した。

② 救急対応に必要な知識と意識の比較

学校事故発生時に必要な「救急処置」「連絡方法」に関して、「実践できる」および「わかる」と回答する教職員の割合を研修実施前後で比較した。

1）心肺蘇生法のやり方(胸骨圧迫の位置、リズム、回数、圧迫方法等)

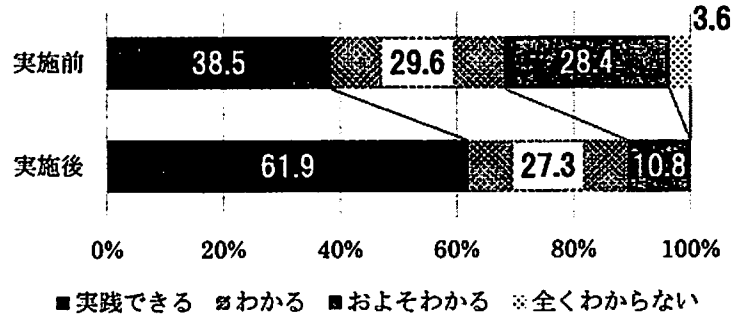
図２　心肺蘇生法のやり方



実施前は「実践できる」「わかる」が 66.9%であったが、実施後は 86.3%に増加しており、検定の結果実施前後で有意差があると言える。
(P＜0.01 のとき、P＝8.4634E-09)

2）ＡＥＤの使用方法

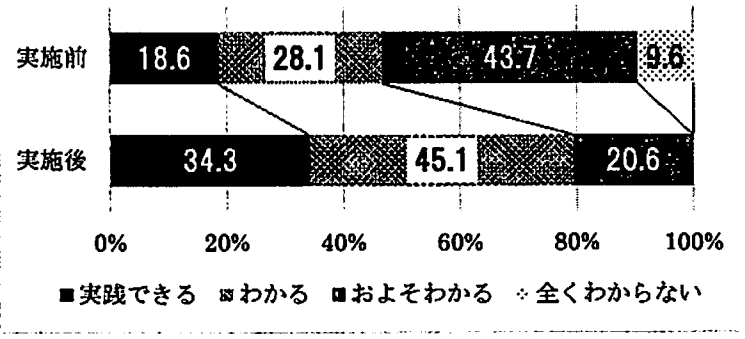
図３　AEDの使用方法



実施前は「実践できる」「わかる」が 68.1%であったが、実施後は 89.2%に増加しており、検定の結果実施前後で有意差があると言える。
(P＜0.01 のとき、P=6.81975E-09)

3）食物アレルギーによるアナフィラキシーショックへの初期対応

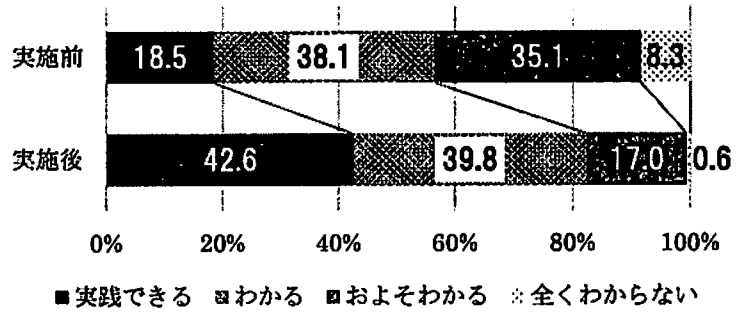
図４　アナフィラキシー対応



実施前は「実践できる」「わかる」が 46.7%であったが、実施後は 79.4%に増加しており、検定の結果実施前後で有意差があると言える。
(P＜0.01 のとき、P=4.07326E-10)

4）医療機関を受診するような傷病が発生した時、保護者に何を伝えるべきか

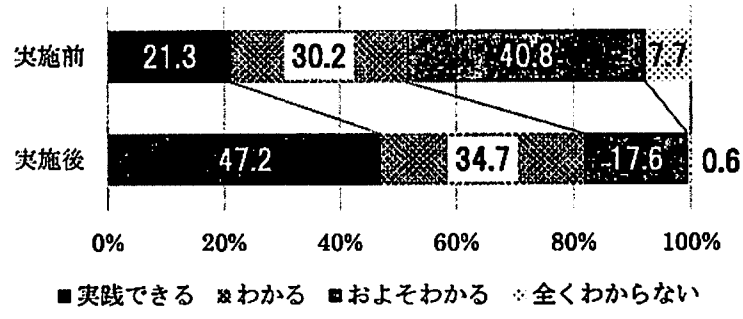
図5　保護者連絡の仕方



実施前は「実践できる」「わかる」が56.6%であったが、実施後は82.4%に増加しており、検定の結果実施前後で有意差があると言える。
（P＜0.01のとき、P＝9.71743E-11）

5）救急車を要請する役割になった時、消防本部（通信員）に何を伝えるべきか

図6　救急車要請の仕方

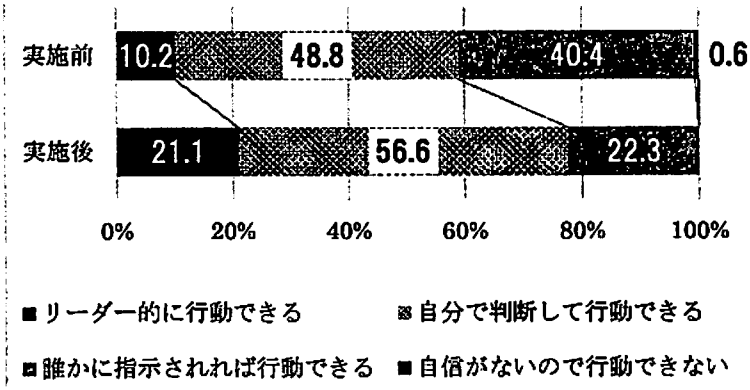


実施前は「実践できる」「わかる」が51.5%であったが、実施後は81.9%に増加しており、検定の結果実施前後で有意差があると言える。
（P＜0.01のとき、P＝1.52807E-11）

③　校内救急体制に関わる行動の比較

校内救急体制の中で、「リーダー的に行動できる」「自分で判断して行動できる」と回答する教職員の割合を研修実施前後で比較した。

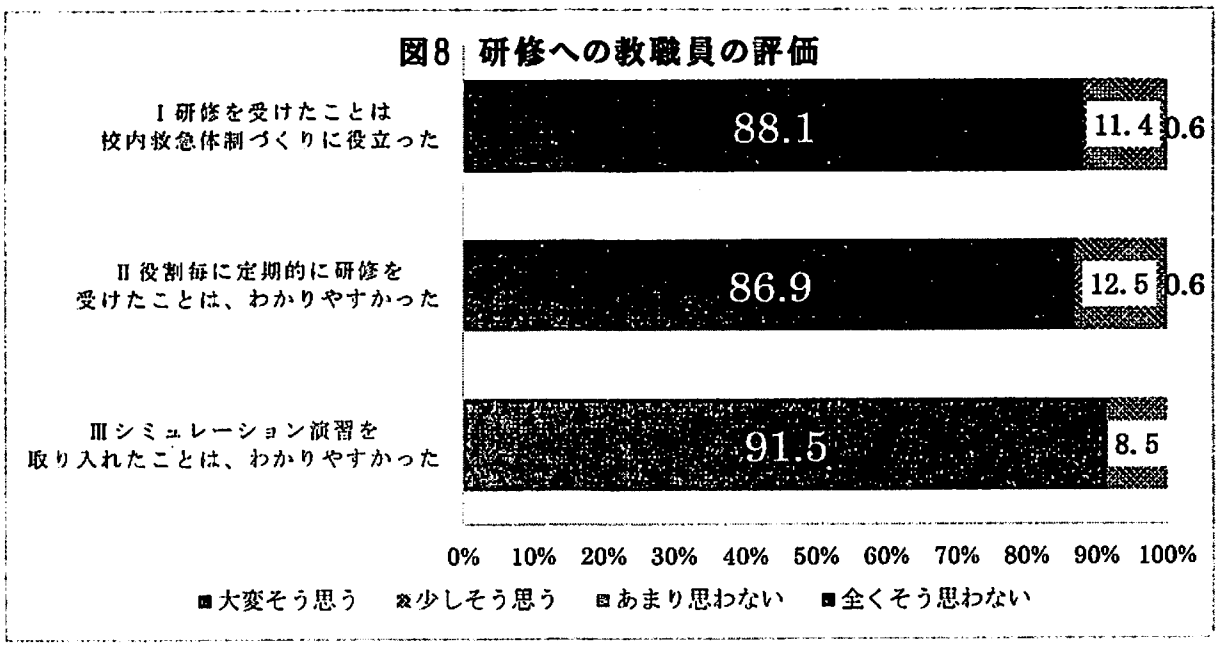
図7　緊急時の行動



実施前は「リーダー的に行動できる」「自分で判断して行動できる」が59.0%であったが、実施後は77.7%に増加しており検定の結果実施前後で有意差があると言える。
（P＜0.01のとき、P＝3.01854E-06）

④　ショート・シミュレーション研修への教職員の評価

研修実施後、シミュレーション演習を取り入れ定期的な研修が校内救急体制づくりに効果があったか、教職員に評価してもらった。



「大変そう思う」と回答した教職員が、8割を上回っていた。

〈まとめと考察〉

○研修によって、救急対応に必要な物品の保管場所が、教職員に周知されたと考える。しかし、「アレルギー管理指導票の保管場所」について「わかる」と答えた教職員は増加しているが、他の項目と比べ低かった。その理由として、ショート・シミュレーション研修の中で積極的に触れなかったことが考えられる。今後は、佐倉市内全校で実施している学校薬剤師による食物アレルギー研修会の中で「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」についても周知を図っていきたい。

○心肺蘇生法、AEDの使用、アナフィラキシー対応、保護者連絡、救急車要請の全項目で、研修実施後には、「実践できる」および「わかる」と答えた教職員が増加した。「実践できる」は「知識があり行動できる」、「わかる」は「知識がある」、と捉えると、研修実施によって、教職員の救急対応に対する知識や意識が高まったと考える。

○教職員の救急対応に対する知識や意識の高まりが、校内救急体制関わる行動への自信につながったと考える。しかし、自分で判断すること、リーダー的に行動することには、自信がない職員もいることから、今後も継続した研修が必要と思われる。

○役割毎のシミュレーション演習を取り入れ定期的な研修はわかりやすく、校内救急体制づくりに効果的であった、と教職員から評価されたと考える。ショート・シミュレーション研修を次年度も望む意見や、他のテーマについても知りたいという積極的な意見も多数寄せられたことから、教職員も校内救急体制に関する研修の必要性を感じていることがわかった。

6　研究の成果と課題

（1）研究の成果

シミュレーション演習を取り入れた短時間の職員研修プログラムを作成し、定期的に実施したことで、緊急時の個々の役割が明確になり、教職員の救急対応に関する知識や意識が高まった。実施後のアンケートからは「校内救急体制づくり」に役立ったという評価が得られた。

（2）今後の課題

学校現場では、予想外の事故が起こり、今回の研修プログラムだけでは十分とは言えない。そこで、今後もシミュレーション演習を工夫しながら、校内研修を充実させ、連携して動ける校内救急体制づくりに努めていきたい。

＜参考文献＞

「体育活動時等における事故対応テキスト～ＡＳＵＫＡモデル～」　さいたま市教育委員会

「アクションカードを導入した救急救命」　日本学校保健研修社　健　2014.4月号

「エクセル統計」　柳井久江

「ビジュアル探検：からだと健康の小宇宙」　東山書房　健康教室　2009.8月号

DVD「学校におけるアレルギー疾患対応資料」　文部科学省

集う蘇生の心　http://sosei-kokoro.com/index.html

《共同研究者》

佐倉東中学校　林道かおる　臼井西中学校　山田博子　染井野小学校　山下千晴

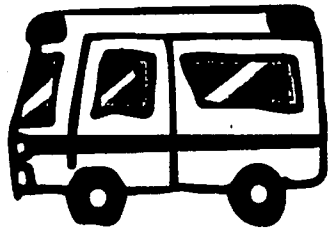
白銀小学校　麻生励子　小竹小学校　野﨑純子　印南小学校　岡本征代

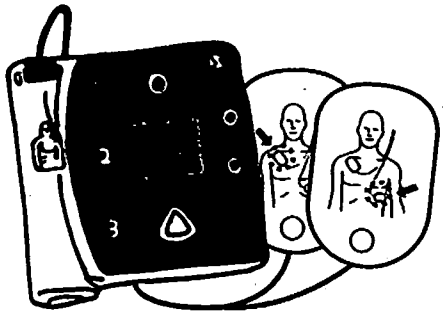
青葡小学校　山口純子　千代田小学校　岩﨑楓

（旧メンバー）

今川清美　大村敦子　栗澤祐子　栗谷川雪恵　髙橋陽子　山畑先代　佐藤歩美

資料編





資料１

６月　保護者連絡

＜実施内容＞　１　傷病発生を想定して、保護者連絡を行う
　　２　保護者連絡で、伝えなくてはならないこと・確認しなくてはならないことを説明する
　　３　保護者連絡で、言ってはならない言葉を説明する

☆ 実施月は6月でなくてもよいが、「救急車要請」の研修後に実施するとよい。
☆ 事前に、演習の担当(担任役A)、演習を評価する担当B、プリント(まとめ資料)配付担当を決め、依頼しておくとよい。

	養護教諭の発言	職員の動き
導入（テーマの説明）	①今日は、傷病発生時の保護者連絡を練習します。 ②本校では今のところ、保護者連絡は担任が行っていますから、（学校の実態） ③経験したことのある先生が多いと思いますが、実際の場面で必要なことを簡潔に伝えることはとても難しいです。 ④前回の救急車要請は１１９番通報をすると、指令員が通報者を落ち着かせるように、順番に質問してくれましたが、今回は、反対に動揺する保護者に不安を与えないように、連絡しなければなりません。「いつ・だれが・どのようにして・どうなった」という病気やけがの状況を伝える部分は共通ですが、そのほか、伝えなくてはならないこと、確認しなくてはならないこと、反対に言ってはならないこともあり、非常に難しい課題です。そこで、緊急時に慌てないよう、保護者連絡の練習をしたいと思います。	☆テーマについて現状や問題点を説明し、研修の目的を明確にする。 ☆「救急車要請」と比較し「保護者連絡」の難しさを強調し、研修の必要性を認識させる。
展開（シミュレーション演習）	⑤それでは、まず場面設定をします。 管理職、養護教諭不在の昼休みに、４年生男子Ｙが昇り棒に上り、高さ 2.5m から落下。近くにいた児童がグラウンドにいたＸ先生に連絡。Ｘ先生は、近くの児童に先生を呼んでくるように指示し、Ｙの状態を確認。（意識有るがぼんやり、呼吸有り） Ｙが見える位置で 119 番通報（携帯電話所持）。そこへ、他の教員がＡＥＤも持って集まってくる。安静に寝かせ救急車を待つ。 以上の経緯を、Ｘ先生から聞いた担任Ａ先生が、自宅に電話連絡した。 ⑥Ａ先生、保護者連絡をお願いします。 Ｂ先生は、「保護者連絡・練習チェックシート」を使って、評価をお願いします。 **＜シミュレーション演習 1＞** ⑦Ａ先生、感想を一言お願いします。Ｂ先生は、評価を簡単に発表してください。 **＜シミュレーション演習 2＞** Ａ先生，（「保護者連絡・練習チェックシート」を渡して）もう一度練習してみましょう。 Ａ先生、感想を一言お願いします。 ⑧Ａ先生、Ｂ先生ありがとうございました。	○学校の実態に応じた臨場感のある場面を設定し、緊急時に適切に行動するための演習を行う。 Ａ：保護者連絡 Ｂ：評価 Ａ：感想を発表 Ｂ：評価を発表 ☆評価が低い場合は「チェックシート」を見ながら演習。省略可能。
まとめ（まとめ資料）	⑨Ｂ先生の評価を「まとめ資料」で確認してみます。プリントを配付してください。 「保護者連絡で必ず伝えること・確認すること」をまとめました，（Ａ先生が伝えられなかった項目・確認できなかった項目等に簡単に触れ）詳しくは後程，ご覧ください。 裏面をご覧ください。保護者連絡のポイントが６点、ポイントを抑えるための心得が４点また、言ってはいけないＮＧワードもまとめました。（ついロにしてしまいがちなＮＧワードに簡単に触れ）詳しくは後程，ご覧ください。 ありがとうございました。	プリント配付 ☆「シミュレーション演習」中心のため、説明しきれないがポイントは確実に伝える。

資料2

保護者連絡・練習チェックシート（例）

＜場面設定＞　管理職と養護教諭は不在

場面設定をします。管理職、養護教諭不在。昼休み。４年生男子Ｙが昇り棒に上り、高さ2.5mから落下。近くにいた児童が、グラウンドにいたＸ先生に連絡。Ｘ先生は、近くの児童に先生を呼んでくるように指示し、傷病者の状態を確認。（意識有るがぼんやり、呼吸有り）傷病者が見える位置で119番通報。

そこへ、他の先生方がやって来る。

以上の経緯を、担任Ａ先生から自宅に電話連絡した。

保護者に伝えられたら✔を入れてください

	内容		例	✔
1	相手先の確認		もしもし、Yさんのお宅ですか。	✔
2	自分自身の所属		私は〇〇学校のY君の担任のAです。	✔
3	生徒の状況	いつ	昼休みに	✔
4		どこで	校庭で	✔
5		何をして	登り棒で遊んでいて	✔
6		どうなったか	高さ2. 5mから落下しました。	✔
7		どういう手当をして	近くにいた教員がすぐに駆けつけたところ、呼吸はありますが、意識がぼんやりしていたため、すぐに119番通報しました。	✔
8		今どうなっているか	今は、楽な姿勢で寝かせて、AEDを準備して、救急車の到着を待っているところです。	✔
9	かかりつけの病院等の確認		かかりつけまたは希望の病院はありますか。	
10	今後の動き ※保護者の状況に応じて異なる。	来てもらいたい場所	すぐに、学校に来ていただけるでしょうか。 正門に職員を待たせます。	
11		来校までの時間、	どのくらいで、学校に来られますか。	✔
12		交通手段	お車で来られますか。	
13		救急車より早く学校につく場合	あと数分で救急車が到着しますので、間に合えば救急車に同乗してください。	✔
14		救急車より遅く学校につく場合	間に合わなければ、病院が決まり次第、この電話または携帯電話に連絡します。 間に合わなくても学校に来ていただければ、病院へ職員が一緒に行きます。	✔
15		持参してもらうもの	保険証、受給券など、普段受診しているときに持っていくものと、携帯電話もお持ちください。	
16		携帯番号の確認	携帯電話をお教えください。	✔
17	心配をかけていることへのお詫び		ご心配おかけして申し訳ありません。 ※学校側の非を認めるような謝罪はNG	✔
18	落ち着くよう言葉がけ		くれぐれも、交通事故に気をつけて来てください。	✔

NGワード

多分、大丈夫だと思う　　念のため

資料３（表面）

保護者連絡のまとめ

☆不用意に憶測で言わずに、慎重に、誠意をもって、「わかっている事実」を正確に伝える。

☆落ち着いて、保護者に「今後の動き」等を明確に伝える。

1）保護者連絡で必ず伝えること・確認すること

内容	
① 相手先の確認	
② 自分自身の所属	
③児童生徒の状況	いつ
	どこで
	何をして
	Ａさんがどうなったか
	どういう手当をして
	今どうなっているか
④かかりつけの病院（主治医）等の確認	
⑤今後の動き ※保護者の状況に応じて異なる。	保護者に来てもらいたい場所
	保護者の来校時間、交通手段の確認
	救急車より早く学校につく場合
	救急車より遅く学校につく場合
	保護者に持参してもらうもの（保険証、携帯電話）など）
	今後、確実に連絡がつく電話番号（携帯番号の確認）
⑥謝罪（心配をかけていることへのお詫び）	
⑦落ち着くよう言葉がけ	

資料3（裏面）

2)保護者連絡のポイント

1　事故の状況　→いつ、どこで、何をしていて、どうなったか。
2　学校がとった対応　→どういう手当てをして、　今、どうなっているか。
3　かかりつけ病院の確認
4　今後の保護者の動き　→来てもらいたい場所
　交通手段と到着予定
　救急車到着より早い時・遅い時の動き
　確実な連絡先
5　持参してもらうもの　→保険証　・　携帯電話　など
6　気配り　→心配をかけることへのお詫び・落ち着くような言葉掛け

3)保護者連絡の心得

1　電話の前に伝える内容を整理する。
　具体的に
　もれ落ちなく
　落ち着いて
2　電話の内容は記録する。
3　保護者からの質問には、わかっている事実の範囲内で説明する。
　→不明な点や確認中の点については、その旨を伝える。
　○ 周りにいた職員から状況を確認します（しています）ので、
　　しばらくお待ちください。
　○ ～についても、わかり次第、ご連絡します。
4　誠意をもって

4)NGワード　※医師の診断を受けるまでは、傷病の正確な状況はわかりません！

×　たぶん
×　おそらく
×　大丈夫ですよ。
×　大したことはない
×　このようなけがをさせてしまい、申し訳ありませんでした

資料4

ショート・シミュレーション研修実施記録（例）

学校名　佐倉市立〇〇小学校

＜テーマ＞　保護者連絡

＜年月日＞　平成28年7月12日

1　研修時間　16：13　～　16：28

2　実施内容

- ☑ 傷病発生を想定して、保護者連絡を行う
- ☑ 保護者連絡で、伝えなくてはならないこと・確認しなくてはならないことを説明する
- ☑ 保護者連絡で、言ってはならない言葉を説明する

3　教職員の反応

・事前に担任役を依頼していたので、メモをとりながら場面設定を聞いて、そのメモを見ながら落ち着いて連絡してくれた。⇒メモをとる重要性を感じてくれたと思う。

・評価担当者もチェックシートを使って、何が連絡できて、何が漏れ落ちているか、避けた方が良い言葉等簡潔にまとめてくれた。⇒評価者の説明を全員が真剣に聞いてくれ、研修の雰囲気が引き締まった。

4　工夫した点

・評価担当者は保健主事に依頼し、事前に研修テーマの趣旨を説明した。

5　次回への課題・その他気づいた点

・展開部分が長引いて研修時間が超過しないか、まとめ部分で焦ってしまい、上手く説明できたか不安だが、「まとめ資料」を配布してファイルに残してもらっているので、次回の調整月に補足説明したい。

資料５

アクションカード（１２枚）

✚ 救急体制

アクションカード

（１１種類）

カードの種類

カードの名称	担当者名	[illegible]
「救急車を要請する」		
「手当をする（養護教諭もしくは代理者）」		
「ＡＥＤを現場に持って行く」		
「他の職員を集める」		
「記録をとる」		
「救急車を誘導する」		
「保健調査票を用意する」		
「保護者に連絡する」		
「周囲の児童・生徒の対応をする」		
「管理職に連絡する」（不在の場合）		
「エピペン（アレルギーの自己注射）を持っている児童生徒だったら		

◆臨機応変に対応する（カードにとらわれない。この他に必要なことはないか？）

◆カードを回収し、それぞれの役割が遂行されたか確認する。

救急車を要請する

裏を見て

本校の住所	（佐倉市　　）
本校の電話番号	（０４３－　　）

◆様子が変化した時は、１１９番へ追加通報する。

◆必要により、携帯電話を使って、
傷病者のそばから１１９番通報する。

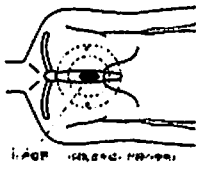
◎救急車を要請した時間は？（　　時　　分）

手当をする
（養護教諭もしく代理者）

裏を見て

◆呼びかけに反応がなく、呼吸もなければ、すぐ胸骨圧迫を行う

※呼吸しているか、わからなければ「呼吸なし」と判断する。



胸骨圧迫

強く…約５cmの深さで

速く…１分間に 100～120 回

絶え間なく…できるだけ中断しない

◆人工呼吸もできるなら行う。[胸骨圧迫３０回　ー　人工呼吸２回]の繰り返し。

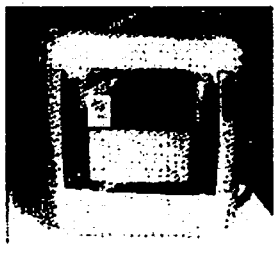
◆ＡＥＤがあれば必ず使う。

◎胸骨圧迫開始時間は？（　　時　　分）　◎ＡＥＤ実施時間は？（　　時　　分）

ＡＥＤを現場に持って行く

裏を見て

◆本校のＡＥＤは（　　）にある。



◎ＡＥＤを持って現場に到着した時間は？　（　　時　　分）

他の職員を集める

裏を見て

◆放送をかける
「手のあいている先生は、（　　）に
すぐ集まってください。」

◎放送をかけた時間は？　（　　時　　分）

記録をとる

裏を見て

（記録）

（　年　組）　児童生徒氏名（　　）記録者名（　　）

時間	状況と対応（何をしたか）

※発生時刻、傷病児童生徒の状態の変化、行った対応など時刻と共にできるだけ細かく記録する。

救急車現場到着時刻	時　分	救急車現場出発時刻	時　分
心肺蘇生法開始時刻	時　分	AED装着時刻	時　分

救急車を誘導する

裏を見て

◆校門で待機し、救急車を現場に誘導する。

◆誘導路に障害物があればどける。

◎救急車が学校に到着した時間は？（　時　　分）

「保健調査票」を用意する

裏を見て

◆本校の「保健調査票」は（　　）にある。
戸棚の鍵は（　　）にある。

◆保護者より先に救急車が到着したら、保健調査票を見て、本人の名前、保護者名、住所、電話番号、持病など、救急隊員に聞かれたことを伝える。

保護者に連絡する

裏を見て

◆推測を交わず「わかっている事実」のみ、誠意を持って伝える。
◆保護者を落ち着かせるとともに、「今後の動き」等を伝える。

1．相手先の確認		
2．自分の所属、名前		
3．児童生徒の状況	いつ、どこで、何をして、どうなったか、どういう事情をして、今どうなっているか	
4．かかりつけの病院の確認	かかりつけ又は希望の病院はあるか？	
5．今後の動き	①保護者に来てもらいたい場所	
	②保護者の来校時間、交通手段	
	③救急車より早く学校に着く場合	例：間に合えば救急車に同乗を
	④救急車より遅く学校に着く場合	例：間に合わなくても学校に来ていただければ病院、一緒に行く、等
	⑤保護者に待参してもらう物	例：保険証、母子手帳、携帯電話…
	⑥保護者の携帯電話番号	
6．心配をかけている側面	例：「ご心配をおかけしてすみません」　※学校側の等を謝めるような言葉	
7．落ち着くよう言葉かけ	例：「くれぐれも交通事故にはつけてゆてください」	

◎保護者に電話した時間は？　（　　時　　分）

周囲の児童生徒の対応をする

裏を見て

◆現場から周囲の児童生徒を遠ざける。
（目撃者以外）

◆目撃していた児童生徒から事情を聞く。

◆気分不快を訴える児童生徒がいたら対応する。

管理職に連絡する

（管理職が不在の場合）

裏を見て

校長先生の携帯電話番号
（　　－　　－　　）

教頭先生の携帯電話番号
（　　－　　－　　）

◎管理職に電話した時間は？（　　時　　分）

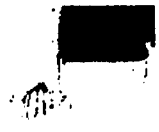
エピペン（アレルギーの自己注射）を持っている児童生徒だったら

裏を見て

◆エピペン（アレルギーの自己注射）を持っている児童生徒の場合は、保管場所（本人のカバンなど）にエピペンを取りに行き、現場に届ける。

〈次のことが１つでもあれば、エピペンを打つ〉

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈がふれにくい
- 唇や爪が白い
- 我慢できない腹痛
- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
- 繰り返し吐き続ける



写真のように持って
太ももの外側に打つ

◎エピペンを打った時間は？　（　　時　　分）

パワーポイント（8枚）

資料6

（スライド1）

校内救急体制
ショート・シミュレーション研修

最終回（まとめ）

（スライド2）

1. 救急車要請

Q:答えられますか？
- 学校の住所
- 学校の電話番号
- あなたの携帯番号（もし携帯からかけた場合）

⇨ 職員室・保健室・事務室の電話には、学校の住所と電話番号を表示してあります

Q:携帯？　固定電話？

どちらでもOK
携帯電話・・・傷病者のそばから状態を伝えられる
固定電話・・・場所が特定できる

大切なのは、あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝えること！

（スライド3）

2. 保護者連絡

伝えること
- ○いつ・どこで・何をして・どうなった
- ○どういう手当をして
- ○今、どんな状態か

確認すること
- ○主治医
- ○来てもらう場所・手段・到着予定
- ○確実に連絡がつく電話番号

NGワード
- ×「たぶん…」
- ×「大丈夫ですよ」
- ×「けがをさせてしまい、申し訳ありません」

不明な質問をされたら
「確認しますのでお待ちください」

心配をかけることへの謝罪
「ご心配をおかけして申し訳ありません」

落ち着かせる
「お気をつけて」

わかっている事実のみ、誠意をもって伝えましょう！

（スライド4）

3. 胸骨圧迫

圧迫の位置
胸の真ん中（両乳首を結んだ線の中央）

圧迫方法
- 強く……約5cmの深さで
- 速く……1分間に100～120回
- 絶え間なく……できるだけ中断しない
- 圧迫と圧迫解除…押したらしっかり戻す

迷った時は、心停止と考え、ためらわず、すぐ胸骨圧迫を開始！

（スライド５）

4. AED

1. フタを開けると 自動電源ON　2. 電極パッドを胸に貼る　3. ボタンを押して 電気ショック

Q:「電気ショックは不要です」と言われたら心臓は動いている？

電気ショック不要　≠　心臓が動いている
→　反応がなく、呼吸もなければすぐ胸骨圧迫を行う

必要か迷った時は、AEDを装着する！（AEDは心電図計でもある）

（スライド６）

5. 記録

何を記録するか
- ○事故の状況
- ○応急処置の内容
- ○救急車の要請と到着
- ○保護者への連絡と到着

◎時間を必ず記録する

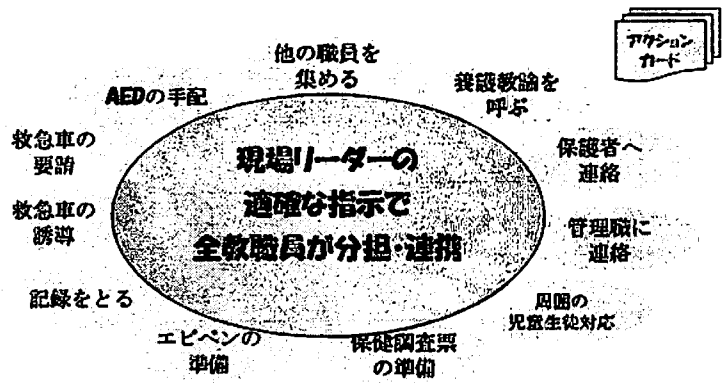
（例）

13:05	クラスメイトが職員室に連絡
13:08	担任が本人の状態を確認 咳こみ、嘔吐、じんましん 牛乳アレルギー？
13:14	養護教諭が教室に到着
13:19	エピペンを使用
13:19	教頭が救急車要請
13:22	担任が保護者連絡
13:27	救急車が到着

重大事故発生時には、全員が記録をとり、後で照合する

（スライド７）

6. 傷病発生！　あなたが現場のリーダーになったら…



（スライド８）

児童生徒の命を守るための「救急体制マーチ」

＊誰でも知ってる曲の替え歌（１分間に１００～１２０回のリズム）で、救急対応に必要な役割を確認。

資料7（事前）

先生方へ

「傷病発生時の初期対応に関するアンケート調査」のお願い

学校で傷病が発生した場合、適切に救急処置を行い、速やかに医療機関に引き継ぐためには、全教職員が共通の認識をもち組織的に対応しなければなりません。

そこで、佐倉市養護教諭会・救急処置班では、傷病発生時の初期対応に必要な技術や情報を、全教職員が共有できることを目指し研修をすすめております。

つきましてはお手数ですが、アンケートへご協力をお願いいたします。

佐倉市養護教諭会　救急処置班

1　ご自身についてお答えください

性　別	1　男性　2　女性
経験年数	1　1~5年　2　6~10年　3　11~20年　4　21~30年　5　31年以上

※　経験年数は、平成２８年４月１日現在

2　校内で傷病者が発生した時に必要な情報について、当てはまるものを１つ選んでください。

（１）AEDの設置場所　わからない　わかる

（２）担架の設置場所　わからない　わかる

（３）保健調査票の保管場所　わからない　わかる

（４）「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」の保管場所　わからない　わかる

※アレルギー管理中の児童生徒が在籍しない学校は空欄とする

3　校内で傷病者が発生した時の対応について、当てはまるものを１つ選んでください。

1　全くわからない　2　およそわかる　3　わかる　4　わかって実践できる

（１）心肺蘇生法のやり方(胸骨圧迫の位置、リズム、回数、圧迫方法等)がわかる　1　2　3　4

（２）心肺蘇生法の中で、AEDの使用方法がわかる　1　2　3　4

（３）食物アレルギーによるアナフィラキシーショックへの初期対応がわかる　1　2　3　4

（４）医療機関を受診するような傷病が発生した時、保護者に何を伝えるべきかがわかる　1　2　3　4

（５）救急車を要請する役割になった時、消防本部(通信員)に何を伝えるべきかがわかる　1　2　3　4

4　校内で心停止など傷病者が発生した時、救急処置や救急車要請など「校内救急体制」の中で、あなたはどのように行動すると思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

（１）自信がないので行動できない

（２）誰かに指示をされれば行動できる

（３）自分がやるべきことを判断し行動できる

（４）他の教職員に指示をだすなど、リーダー的に行動できる

ご協力ありがとうございました。

資料７（事後）

「傷病発生時の初期対応に関するアンケート調査」のお願い

１　ご自身についてお答えください

性　別	１　男性　２　女性
経験年数	１　1~5年　２　6~10年　３　11~20年　４　21~30年　５　31年以上

※ 経験年数は、平成２８年４月１日現在

２　校内で傷病者が発生した時に必要な情報について、当てはまるものを１つ選んでください。

（１）AEDの設置場所　　わからない　わかる
（２）担架の設置場所　　わからない　わかる
（３）保健調査票の保管場所　　わからない　わかる
（４）「学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)」の保管場所　　わからない　わかる
※アレルギー管理中の児童生徒が在籍しない学校は空欄とする

３　校内で傷病者が発生した時の対応について、当てはまるものを１つ選んでください。

１　全くわからない　２　およそわかる　３　わかる　４　わかって実践できる

（１）心肺蘇生法のやり方(胸骨圧迫の位置、リズム、回数、圧迫方法等)がわかる
１　２　３　４
（２）心肺蘇生法の中で、AEDの使用方法がわかる　１　２　３　４
（３）食物アレルギーによるアナフィラキシーショックへの初期対応がわかる
１　２　３　４
（４）医療機関を受診するような傷病が発生した時、保護者に何を伝えるべきかがわかる
１　２　３　４
（５）救急車を要請する役割になった時、消防本部(通信員)に何を伝えるべきかがわかる
１　２　３　４

４　校内で心停止など傷病者が発生した時、救急処置や救急車要請など「校内救急体制」の中で、あなたはどのように行動すると思いますか。当てはまるものを１つ選んでください。

（１）自信がないので行動できない
（２）誰かに指示をされれば行動できる
（３）自分がやるべきことを判断し行動できる
（４）他の教職員に指示をだすなど、リーダー的に行動できる

５　今年度の研修会全般について、当てはまるものを１つ選んでください。

１全くそう思わない　２あまりそう思わない　３少しそう思う　４大変そう思う

（１）救急車要請や保護者連絡など、校内で傷病者が発生した時に必要な役割について研修を受けたことは、「校内救急体制づくり」に役立ったと思う。
１　２　３　４
（２）校内で傷病者が発生した時に必要な役割について、役割毎に定期的に研修を受けたことは、わかりやすかった。
１　２　３　４
（３）研修プログラムの中に、シミュレーション演習（実際の場面を想定した模擬練習）を取り入れたことは、わかりやすかった。
１　２　３　４

６　参考になった研修内容、もっと詳しく知りたかった研修内容、その他ご意見やご感想をお寄せください。

お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました。

資料８

教職員へのアンケート（平成２９年３月実施）　質問６の自由記述欄より抜粋

学校	記 述 内 容
Ａ幼稚園	・実際に動いてみることでとてもリアルに感じた。何をすればよいのか、カードに書いてあり、わかりやすい ・実際を想定した研修、フリでもやったという記憶はやらないよりはるかに身に付くと思いました。アクションカードが本当にわかりやすく、動くきっかけづくりの大切さを知った
Ｂ小学校	・年間を通しての研修だったことから、先生方の危機管理能力が高まったとともに、意識づけができたと思います。 ・模擬演習はイメージしやすく、今でも印象に残っています。実際に何か起きた時には思い出して対応したいと思います。 ・一度だけでなく時々行う、または掲示されていていつも目にふれるなど、工夫して実践に困らないようにしたい。
Ｃ小学校	・頭ではわかっているつもりですが、実際に演習をしていただくことで、少し自信をもって対応できるように思います。 ・目の前に傷病者が発生したら実際動けるかどうかはとても不安なので、このような研修は継続していただきたいと思います。 ・１年を通して工夫を凝らした研修でとても勉強になった。
Ｄ小学校	・とても丁寧に準備をしていただき、意義深い研修でした。同じ内容でも繰り返し行っていただけるとよいかと思います。 ・とても役に立ちました。少しずつ、わかりやすく資料や体験ができ、本番をイメージした研修でした。企画したみなさんすばらしかったです。
Ｅ小学校	・カードがわかりやすかった。 ・研修の必要性がわかった。 ・まとめの研修があり　わかりやすかった。
Ｆ小学校	・とてもよい試み。アクションカードがあることで応援者がもれ落ちなく声をかけることができる。 ・まとめの資料がわかりやすかった。 ・わかっていることでも、繰り返し研修を積むことが大切。
Ｇ中学校	・実際にできるかは不安がないわけではありませんが、定期的な啓発研修が大事だと思います。 ・１年で終わりにせず、毎年繰り返して研修していくと身につくと思います。 ・実際に事故が発生した場合、パニックでスムーズに行動できないと思うので、模擬練習は大切だと思いました
Ｈ中学校	・大きなケガ（多量出血など）時の応急手当（血を見たときの生徒の対応処理の仕方）一度行って欲しいです。 ・定期的に研修をしていただくと、いざという時に自信を持って動けると思います。
Ｉ中学校	・度々経験することではないが、いざという時のために教員である以上、出来なければいけないことばかりだったので、大変有意義な研修だった。 ・実際の現場の声、緊張感が伝わってきて本番を想定した研修が出来ました。紙を見て終わりではなく、実物を使ってシミュレーションできたので、慌てず動けそうです。 ・生徒の避難訓練と一緒で、実際にシミュレーションをすることは必要だと思います。